

2023年(R5年)



No. 371

WELCOME



社会福祉法人 ひとほ福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムア°-ヅアド リス)http://hitoha-fukushi.com (メーアド リス)honbu@hitoha-fukushi.com

出会いと別れが交錯し、新たなスタートを迎える新年度、皆様いかがお過ごしでしょうか。ひとほの周辺も色とりどりの花が咲き誇り、春を謳歌しています。

この3月、4名の子ども達(民法上は成人ですが)が高等部を卒業し、ひとほ福祉会の児童支援部の利用を終え、それぞれ新しい環境下での生活を始めます。私とこの子ども達との出会いは、(ほとんどが)平成20年に開催をした第1回目の安芸高田交流キャンプです。当時まだ保育園の年少さんで、お母さんと離れた活動に心細そうな表情をしていた様子を昨日のこのように思い返します。安芸高田市内に障がいやサポートを要する子ども達の福祉資源が拡充されていき、かけとなつたのが、この交流キャンプであったと思います。

また、(ほふ・すてふ・じゃんぷ)という親の会の要望、運動がうねりとなり、ひとほまごの開所、その後の児童支援部の取り組みにつながっていきました。文尚さんは「私たちに大切なのはソーシャルワークとソーシャルアクションだ」と常々言っていました。私たちがひとほ福祉会に大切なことは、誰かの「困った」をみんなの、そして地域の「困った」に押し上げ、課題解決をなしていくことだと思ひます。

時代と共に社会状況は変わり、障がいのある人を取り巻く社会的課題も様変わりをしていきます。1985年、ひとほ福祉会が歩み始めた当初に掲げた「誰でもが共に暮らせる社会」の実現に向け、これからも実践を重ねていきます。皆様のご支援の程よろしくお願ひいたします。(理事長 佐竹正亮)

4月号からの題字はひとあ・くらぶの三井裕森さんが担当します。電車が大好きな小学6年生の男の子です。最近、マクドナルドのハッピーセットのおもちせについての話を大好きなスタッフとおしゃべりして楽しんでます。(ひとあ・くらぶ 山崎志歩)

ひとほスタッフが出張講師を行いました。 ○向原小学校 6年生のクラスにて 越智修 則川靖久

児童の皆さんが様々な分野の方の話聞いた上で、参観日に自分の「夢」を宣言するという授業のねらいがあり、私たちは福祉分野の担当でした。自己紹介やひとほに入、たき、かけ、ひとほについて(理念、活動、大切にしている事等)、寺尾文尚さん、「とんぼ人？」を内容としてお話ししました。一生懸命メモを取る姿、目の輝きは私たちに、と、新鮮でした。ひとほの事を少しでも感じてもらえたらいいなあ。数年後、この中から一緒に働く仲間が出てくるのが私たちの「夢」でもあります。

越智修さん



(絵:高伏洋和)

則川靖久さん



(絵:山野智寛)

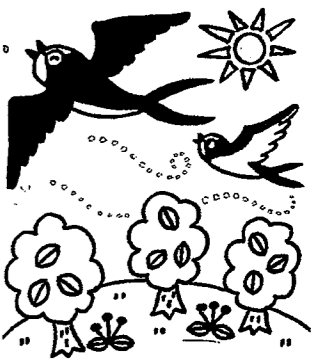
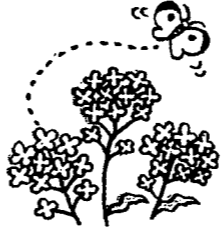
白井くみこさん



(絵:松田夕貴)

○高宮小学校 4年生のクラスにて 白井くみこ

実物に直接触れてもらいたくて、陶器のお皿や置物を持参しました。眺めているだけの時は緊張感が漂っていましたが、触れた瞬間に表情が変わるのがわかりました。「どうやって作るんですか」「ツルツルして気持ちいい」「色がすごくきれいですね」と次々に質問や感想が飛び出し、触れてもらって本当に良かったと思ひました。「陶器は二段階で焼くんだよ」と教えると「フライパンで焼くんですか」「そんなわけないじゃん!」とそこから会話がどんどん広がっていき無邪気さに触れられて、私自身も楽しい経験になりました。



「ささき亭 新喜劇」

ひ

「増野さん、仕事辞めるん？帰りたい？」彼女がそう言うと新喜劇が舞台まる。
 私「うえーん(泣)そんな言うけん、じゃー私帰る。さようなら」彼女「えー帰らんで」
 私「いやいや帰る」彼女「ダメダメ！増野さん大好きよ♡」私「じゃー帰らん♡」そんな
 2人のやりとりをスタッフ竹田さんが見て「あんたらコンビ組んで漫才したら売れるぞ！」
 私「ささき亭しながらコンビ組んだら忙しすぎるわー。ささき亭どうするん。ワッハッハー!!」
 というやりとりをここ数日続けている。ささき亭新喜劇がTVで流れる日が近い
 かもしれない!? (ひとは工房 増野 奈緒)

は

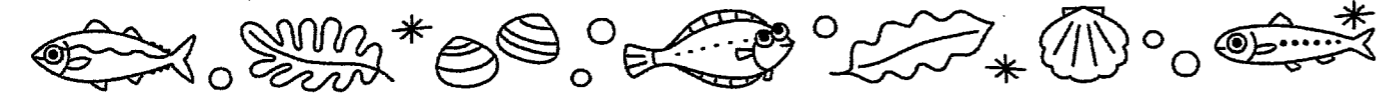
「知らなかった一面」

ひとはの新任者研修の一環で各事業所の見学に行きました。その際に、見学して
 いる僕たちには目もくれず、ひとは窯で水附緑さんが黙々と仕事をされている姿が
 印象に残っています。緑さんはホームでおひとりして、自分のペースで生活されているイメ
 ジなので、真剣な表情の緑さんに驚きました。僕は勝手にホームで仲の良い竹森
 さんや佐々木さんと一緒に日中の仕事をされていると思っており、ホームでのオフの顔しか
 知らなかったのが、今回また違った顔を見ることができて嬉しかったです。
 (共同ホーム 丸岡 北斗)

日

「休憩時間」

お昼ご飯前、車での待ち時間などいろいろなきらうと少しの時間を一緒に過ごすときに
 「一本橋こちょこちょ」をして過ごすことがあります。「一本橋こちょこちょ...二本橋こちょこちょ...三本橋...」
 みんな笑顔で次を待っています。最後には本当に素敵な笑顔になるんですよ。
 こういう手遊びや童謡などはきくとみんな家族の方と小さな頃から楽しんでいた
 んですよ。昔から伝わるものはいいものだなあと思いつつテンションUPに今日
 も一緒に楽しみま〜す♪ (ひとは作業所 関内 宣子)



令和元年発行 ひびきあう 改訂版

「名前」

共同ホームひとは・ひとは作業所 井上 美恵

ひとはの会議でも取り上げられる利用者の呼称の話題。スタッフの中でもいろい
 ろな意見があり、全てを統一するには難しさがあると毎回感じている。確かに親の前
 で省略した名前で呼ぶのはおかしいし、かといってふざけ合っている場面で畏まっ
 て苗字で呼ぶと硬い雰囲気にもなる。お互いの年の差から相応しくない呼び方もあ
 り、未だに迷い続けている。

そんな時、私は大好きな詩「名前は祈り」を思い出す。詩の内容を簡単に言うと、
 名前は若き日の父母が願いを込めて、子どものためだけに用意した美しい祈りで、幼
 い頃、数え切れないほどその祈りを授かり、名前は体の一部になるという詩。話かけ
 る時、笑いかける時、様々な場面で祈り(名前)を授かっている。

平岡真哉さんは人の話を理解することが難しく、理解していたとしても話せない
 ため、思いが伝えづらい。

そんな平岡さんに「危ないから座ってください。」「手を洗いましょう。」と伝える
 と自らその行動をすることは難しいが、名前を呼ぶと、振り返って呼んだ人の顔を見
 ている。平岡さんも幼い頃から数え切れない程の祈りを授かり、体の一部になってい
 ると思えた時、名前を大切に呼びたいという気持ちだけでは迷いがなくなった。

ひびきあう

字三井上潤子

編集後記

「ひびきあう」とは、文尚さんの言葉から、「ひとはの仲間たちと共に作らぬ、苦し
 み、喜び、悲しみ、そしてその根底に人間としてのかけがえのない命がある」と感じ
 た時、私自身「あんなに出会えてよかった。」と実感できたのだと思います。
 仲間たちのささやかな活動に上り表出を受け止め、社会に好んで発信すること、
 白灰の実践を振り返ること、福祉の現場に身を置くその一人ひとりの発信(言
 葉)「ひびきあう。」だと私(井上)思います。二木王でたくさんの実践を文章にしてしま
 した。この王王理も私(井上)も、たいていと思いい、発行した「ひびきあう」の
 中から厳選し、一部改訂し、シリーズとして掲載してまいります。「彼らが易しい
 言葉で語り深い原意は、私(井上)の社会を豊かにするためにたたく(井上)たたくもの
 です。」運営理念の一文です。
 (井上 美恵)